

受身から見た大塚保安語の主題化

アルラ

(東京外国語大学大学院)

キーワード：保安語（モンゴル諸語）、記述言語学、受身、主題化

1. はじめに

本発表では、中国甘粛省で話されるモンゴル諸語の一つである保安語大塚方言(以下、大塚保安語と呼ぶ)における語順による目的語主題化文と中国語借用要素 *gi*(是)による目的語主題化文の特徴を受身文の統語的・機能的観点から比較対照する。

先行研究によれば、保安語には受身を表す専用の要素が存在しないとされている。

- ① 現代モンゴル語(-*gd*, -*d*)、東部裕固語(-*gd*)などのモンゴル諸語は受身を表す形態素が有するが、大塚保安語にはこれらのモンゴル諸語と異なって受身を表す形態素が存在しない。現代モンゴル語では、(1a)の能動文に対し、(1b)の受身文がある。

- (1) a. *baqf namaig dʒiməl-ə-v.*

先生 1SG.ACC 叱る-EP-PST

「先生が私を叱った。」

- b. *bi baqf-d dʒiməl-ə-gd-ə-v.*

1SG 先生-DAT 叱る-EP-PAS-EP-PST

「私が先生に叱られた。」

- ② 大塚保安語は使役接尾辞(-*gə*)を有する。現代モンゴル語(-*uul*)、土族語(-*lca*)では使役構文が受身の意味で用いられることがある。現代モンゴル語では、(2c)の使役文は(2b)と同じ受身の意味を表すのに対し、大塚保安語(2d)にはそのような使い方がない。

- (2) a. *noxoi mini gar-iig xadʒ-a-v.*

犬 1SG.GEN 手-ACC 咬む-EP-PST

「犬が私の手を咬んだ。」

- b. *bi gar-aan noxoi-d xadʒ-a-gd-a-v.*

1SG 手-REFL 犬-DAT 咬む-EP-PAS-PST

- c. *bi gar-aan noxoi-d xadʒ-uul-v.*

1SG 手-REFL 犬-DAT 咬む-CAUS-PST

「私が犬に手を咬まれた。」

- d. *mənə ɣar-nə nəgui dzu-o.*

1SG.GEN 手-ACC 犬 咬む-PST

「私の手を犬が咬んだ/私の手がイヌに咬まれた。」

- ③ 大塚保安語において受身がどのように表されるのかを検討するために、中国語において典型的に受身を表す「被」構文の文が大塚保安語においてどのように表されるかを調

査した。その結果、語順による目的語主題化文(アルラ 2023)が規則的に現れた。

- (3) a. 我 的 弟 弟 被 他 打 了。

1SG の 弟 被 3SG 殴る PST

- b. mənə du-nə ndzoŋ ekə-tə.

1SG.GEN 弟-ACC 3SG 殴る-PST

「私の弟が彼に殴られた。」

このことは、大墩保安語において受身と主題化が何らかの点に関連していることを示唆していると考えられる。

しかし、ここで問題となるのは大墩保安語におけるもう一つの主題化構文である *ʂi* による目的語主題化文が現れないという点である。

- ④ 大墩保安語の *ʂi* による目的語主題化文(4b)は中国語の主語が動作対象である「是…(的)」構文(4a)に対応して用いられている。

- (4) a. 我 的 弟 弟 是 他 打 的。

1SG の 弟 是 3SG 殴る 的

- b. mənə du ʂi ndzoŋ ekə-saŋ no.

1SG.GEN 弟 是 3SG 殴る-PTCP.PST COP.NMLZ

「私の弟が彼に殴られた。」

発表者の調査において、語順による目的語主題化文は統語的特徴が Shibatani(1985)の典型的な受身文とことなるにもかかわらず「被」構文に対応して用いられる。一方、統語面で Shibatani(1985)の典型的な受身文に共通する *ʂi* による目的語主題化文は「被」構文に対応して用いられない。このとき、「被」構文に対応する形式がどのように選択されているのか、という問題が生じる。

そこで本発表では、「被」構文に対応する形式が語用論的機能によって選択されているという仮説を立て、中国語の「被」およびそれに関する「给・让・叫」構文と、大墩保安語の語順による目的語主題化文、*ʂi* による目的語主題化文を受身の語用論的機能の観点から比較対照し、結論として中国語の「被」構文と大墩保安語の語順による目的語主題化文が共通して Shibatani(1985)が主張する、動作主の脱焦点化という語用論的機能をもっており、そのために、大墩保安語では中国語の「被」構文に対応して語順による目的語主題化文が現れる、ということを実証する。

以上、本発表における問題所在について述べた。2 節では、Shibatani(1985)が提案する典型的な受身文の特徴について述べる。3 節では先行研究に述べる保安語と中国語の受身を統語的特徴から概観する。4 節では、大墩保安語と中国語の受身を機能的特徴から比較対照する。5 節では、結論として考察のまとめと今後の課題について述べる。

本発表の大墩保安語の言語資料は、発表者が 2023 年 9 月と 2024 年 8 月に中国・甘肅省積石山県大河家鎮で行った言語調査により採録したデータを用いる。本発表の例文のうち、出典の表示のないものは発表者の調査によるものである。

2. 受身文の統語的・機能的特徴：Shibatani(1985)

Shibatani(1985)は、典型的な受身文を以下の表のように定義している。典型的な受身文を形態論、統語論、意味論と語用論の四つの面から特徴づけており、典型的な受身文の主要な機能は動作主の脱焦点化である(Shibatani1985:830)、と述べている。

表 1：Shibatani(1985:837)による典型的な受身文の特徴

典型的な受身文の特徴	
形態論的特徴	動詞+接辞
統語論的特徴	動作対象→主語
意味論的特徴	主語が影響される
語用論的機能	動作主の脱焦点化

本発表では、Shibatani(1985)の典型的な受身文の特徴を基に大塚保安語の語順による目的語主題化文、*ʂi* による目的語主題化文及び中国語の受身において、動作対象が主語になるという統語的特徴と動作主が脱焦点化という機能的特徴を中心に考察する。発表者の調査において、大塚保安語の語順による目的語主題化文と *ʂi* による目的語主題化文は両方が中国語の受身に対応して現れている。大塚保安語の語順による目的語主題化文と *ʂi* による目的語主題化文は、それぞれ Shibatani(1985)の典型的な受身文の特徴において機能の面と統語の面で共通している。

3. 保安語と中国語の受身

本節では、先行研究で述べる保安語と中国語の受身を統語論的特徴から概観する。

3.1 保安語の受身

3.1.1 形態・統語的特徴

Todaeva(1964:74)によると、保安語の大河家方言には動作対象が他者の影響を受けることを示す受身文がないという。

陳乃雄(1986)は、保安語の同仁方言には受身を表す固有の接尾辞がなく(陳乃雄 1986:235)、モンゴル語と同様に、保安語の同仁方言の使役接尾辞(-ca)が受身の機能を兼ねている(陳乃雄 1986:238)と述べ、以下の例を挙げている。Janhunen (2003:343)も同様に、保安語の目的語が文頭に置かれ、述語に使役接尾辞が付く場合受身を表す、と述べている。

(5) ca cuala-nə war-ca-rtc. (陳乃雄 1986:238)

狐 二つ-ACC 捕まえる-CAUS-PST

「二匹の狐が捕まえられた。」

保安語の同仁方言において、目的語を前置することによって受身を表すことができる(陳乃雄 1986:237)。

(6) *nəgəi-nə teina dzuːr-te.* (陳乃雄 1986:238)

犬-ACC 狼 咬む-PST

「いぬは狼に咬まれた。(lit. 犬を狼が咬んだ)」

(5)は使役接尾辞が付いているが、動作対象が対格のままである、という点で統語的に Shibatani(1985)の典型的な受身文に合わない。(6)は動詞に接尾辞が付いていない上に、動作対象が主語とならないという形態・統語両方の観点で Shibatani(1985)の典型的な受身文に合わない。

発表者の大塚保安語における調査データでは、中国語の「被」構文に対応して(6)のように目的語を前置するパターンが現れた。

(7) a. 羊 被 狼 抓 了。

羊 被 狼 捕まえる PST

b. *gunə-nə teina var-te.*

羊-ACC 狼 捕まえる-PST

「羊が狼に捕まえられた。」

3.1.2 受身と主題化

(6)はアルラ(2023)における語順による目的語主題化文に相当する。大塚保安語には *ʂi* による目的語主題化文も存在し、*ʂi* による目的語主題化文は動作対象が主格で現れる(アルラ 2023:85)点で Shibatani(1985)の典型的な受身文と統語的特徴が共通している。

3.2 中国語の受身

3.2.1 「被・给・让・叫」の統語的特徴

劉月華(2019:748)は、中国語の「被」構文は①「被」の後に目的語がある型、②「被」の後に目的語がない型、③「被…所」型、④「被…给」型がある、と述べている。

朱德熙(1982:178)は、「被」は動作主を引き出すものとして機能している。動作主が不明か必要ない場合、「被」の後に目的語が現れないこともある。「被」以外に、「给・让・叫」も同様な機能を持っている、と述べている。

(8) 小宝 被 坏人 打 了 一 顿。(劉月華 2019:746)

人名 被 悪者 殴る PST 一 回

「小宝が悪者に殴られた。」

(9) 我 的 车 叫 小李 开 走 了。

1SG の 車 叫 人名 運転する 行く PST

「私の車は小李が運転して行った。」

(8)(9)が示すように、中国語の「被・给・让・叫」構文は動作対象が文頭に置かれ主語に交替し、「被・给・让・叫」の後に動作主が来る、という点で統語的に Shibatani(1985)の典型的な受身文と共通する。

3.2.2 主語が動作対象である「是…(的)」構文の統語的特徴

中国語の「是…(的)」構文は受身との関係からも議論されている。呂文華(1985)は、中国語の「是…(的)」構文のうち、主語が動作対象である「是…(的)」構文は受身を表すと述べている。主語が動作対象である「是…(的)」構文は動作対象が主語になるという点で Shibatani(1985)の典型的な受身文と統語的特徴が共通している。

3.3 まとめ

表 2：大塚保安語と中国語の受身の統語的特徴

統語的特徴(動作対象が主語)	
大塚保安語の語順による目的語主題化文	×
大塚保安語の <i>qi</i> による目的語主題化文	○
中国語の「被・给・让・叫」	○
中国語の主語が動作対象である「是…(的)」	○

大塚保安語と中国語の受身の統語的特徴は以下の表にまとめられる。大塚保安語の語順による目的語主題化文は統語的に Shibatani(1985)が主張する典型的な受身文の特徴とことなる。これに対し、*qi* による目的語主題化文は動作対象が主語となる(主格で現れる)点で典型的な受身文と統語的に共通する。中国語の「被・给・让・叫」構文と中国語の主語が動作対象である「是…(的)」構文は Shibatani(1985)が主張する典型的な受身文の特徴と共通する。

4. 大塚保安語と中国語の受身の機能：動作主の脱焦点化

本節では、中国語の「被・给・让・叫」構文、主語が動作対象である「是…(的)」構文及び大塚保安語の語順による目的語主題化文、*qi* による目的語主題化文を取り上げ、Shibatani(1985)が提案する典型的な受身文の語用論的機能、つまり動作主の脱焦点化の機能(agent defocusing)から考察する。

4.1 中国語の「被・给・让・叫」構文と大塚保安語の語順による目的語主題化文

三宅(2009)は、中国語の「被」構文について、「動作主が何をしたか」ではなく、「動作対象がどうなったか」という視点からの表現であり、動作主が背景化されている。そして、「被」構文の目的語の位置に立つ動作主は統語構造上に表出されないこともある、と述べている。三宅(2009)に従えば、中国語の「被」構文は Shibatani(1985)の典型的な受身文の動作主の脱焦点化(agent defocusing)に適合することになる。

中国語の「被」構文は、発表者の調査において大塚保安語の(10b)(11b)のような語順による目的語主題化文が対応して現れた。

(10) a. 那个 村庄 被 洪水 淹 了。

あの 村 被 洪水 水浸し PST

b. tə ndeva-nə mu si jenge-te.
 あの 村-ACC 悪い 水 水浸し-PST

「あの村が洪水にやられた。」

(11) a. 小李 被 他 给 骗 了。
 小李 被 3SG 给 騙す PST

b. ɛioli-nə ndzoŋ hoŋla-dzo.
 小李-ACC 3SG 騙す-PRF

「小李が彼に騙された。」

以上のように動作対象の後に動作主が現れる場合に加え、(12)(13)のように動作主が省略される場合もある。

(12) a. 飯 被 烧 糊 了。
 飯 被 炊く 焦がす PST

b. jamə-nə dzəurəgə-te.
 飯-ACC 焦がす-PST

「ご飯が焦がされた。」

(13) a. 到 了 早上, 小 兔子 醒来 发现 西瓜 被 偷 了。
 なる PST 朝 小さい うさぎ 起きる 見つける スイカ 被 盗む PST

b. etələdzi kur-sə, ga toli sər-dzi,
 朝 なる-COND 小さい うさぎ 起きる-CVB

gadzir-də ndza-sə ɛigua-nə galχə-te.
 土地-DAT 見る-COND スイカ-ACC 盗む-PST

「朝、うさぎは起きてみたらスイカが盗まれた。」

中国語において受身を表す「给・让・叫」構文は、大塚保安語において「被」構文と同じ、語順による目的語主題化文が発表者の調査において対応して現れる。劉月華(2019:753)は、中国語の受身を表す「给」構文(14a)は目的語の位置に立つ動作主の省略が可能であるが、受身を表す「让・叫」構文(15a)(16a)の動作主の省略が不可能である、という。一方、これらに対応する大塚保安語の語順による目的語主題化文は、すべてが動作主の省略が可能である。以下の(14b)(15b)(16b)の文の動作主は省略することが可能である。

(14) a. 花瓶 给 他 打 碎 了。
 花瓶 给 3SG 打つ 割る PST

b. huapiŋ-nə ndzoŋ ekə-dzi guragə-te.
 花瓶-ACC 3SG 打つ-CVB 壊す-PST

「花瓶が彼に壊された。」

(15) a. 他 的 猫 让 人 偷 了。

3SG の 猫 让 人 盗む PST

b. ndzoŋ-nə mudzi-nə kuŋ galɣə-te.

3SG-GEN 猫-ACC 人 盗む-PST

「彼の猫が人に盗まれた。」

(16) a. 那 本 书 叫 他 借 走 了。

その 冊 本 叫 3SG 借りる いく PST

b. tə ɣu-nə ndzoŋ asgə-dzi dzi-dzo.

その 本-ACC 3SG 借りる-CVB 行く-PRF

「その本が彼に借りられた。」

以上から見られるように、中国語の受身文とされる「被」構文や「给・让・叫」構文に対応して大塚保安語の語順による目的語主題化文が調査において規則的に現れた。3節でみた統語的特徴も含めて、大塚保安語の語順による目的語主題化文を Shibatani(1985)の典型的な受身文の特徴からまとめると以下のようになる。

- ① 大塚保安語には受身を表す形態素(動詞語幹に後続する受身形接尾辞)がない。
- ② 大塚保安語の語順による目的語主題化文において直接目的語は対格のまま文頭に移動し、主格に交替することがない。
- ③ 大塚保安語の語順による目的語主題化文の主語は動作の影響を受けていない。Shibatani(1985:841)によると、主語の位置は「最も高い焦点の位置」であり、動作の影響を受ける動作対象として受影性を示す。大塚保安語の語順による目的語主題化文において対格目的語が主格に交替しないことから、主語が影響を受けるとは言えない。
- ④ 大塚保安語の語順による目的語主題化文では動作主が省略可能であることから、動作主は少なくとも省略されている場合には脱焦点化しているといえる。

以上のことから、大塚保安語の語順による目的語主題化文では Shibatani(1985)の提示する典型的受身文の特徴と、第三の特徴である語用論的機能のみ共通している。

中国語の「被・给」構文では動作主が省略可能であるが、「让・叫」構文では動作主が省略不可能である。つまり「被・给」構文のみ動作主が脱焦点化されているとみることができる。

そして、中国語の「被」構文の機能的特徴は大塚保安語の語順による目的語主題化文と共通していることから、発表者の調査において「被」構文に対応して大塚保安語の語順による目的語主題化文が規則的に現れたと考えることが可能である。

4.2 中国語の「是…(的)」構文と大塚保安語の ɣi による目的語主題化文

吕文華(1985)は、機能的観点から、主語が動作対象である「是…(的)」構文の焦点は述語直前の要素である(吕文華 1985:24)、と述べている。主語が動作対象である「是…(的)」構文

の焦点に位置に動作主、動作が行われた時間、場所などが現れ、省略不可能である(呂文華 1985:23)。呂文華(1985)に従えば、中国語の主語が動作対象である「是…(的)」構文は Shibatani(1985)の典型的な受身文の動作主の脱焦点化に適合していない。

大塚保安語の *ʒi* による目的語主題化文は、発表者の調査において中国語の主語が動作対象である「是…(的)」構文に対応して現れる場合があったが、完全に対応するわけではなく、語順による目的語主題化文(17c)が使われる場合も存在する。(17b)のように動作対象が有生である場合、動作主 *teina* が省略できない。

- (17) a. 羊 是 狼 抓 的。
 羊 是 狼 捕まえる 的
- b. *gunə ʒi teina varə-saŋ no.*
 羊 是 狼 捕まえる-PTCP.PST COP.NMLZ
- c. *gunə-nə teina varə-saŋ no.*
 羊-ACC 狼 捕まえる-PTCP.PST COP.NMLZ
- 「羊は狼に捕まえられた。」

動作対象が無生である場合、*ʒi* の後には(18b)のように動作主が現れるだけでなく、(19b)のように動作が行われた時間、場所なども現れる。

- (18) a. 这 张 照片 是 他 拍 的。
 この 枚 写真 是 3SG 撮る 的
- b. *nə dzaopiən ʒi ndzoŋ dzaogə-saŋ ni.*
 これ 写真 是 3SG 撮る-PTCP.PST COP.NMLZ
- 「この写真は彼が撮った。」
- (19) a. 这 张 照片 是 在 雨 天 里 拍 的。
 この 枚 写真 是 において 雨 日 中 撮る 的
- b. *nə dzaopiən ʒi gura or-gu teonə dzaogə-saŋ ni.*
 これ 写真 是 雨 降る-PTCP.NPST 時 撮る-PTCP.PST COP.NMLZ
- 「この写真は雨の日に撮った。」

以上から見られるように、中国語の主語が動作対象である「是…(的)」構文に対応して大塚保安語の *ʒi* による目的語主題化文と語順による目的語主題化文の両方が現れる。3 節でみた統語的特徴も含めて、大塚保安語の *ʒi* による目的語主題化文を Shibatani(1985)の典型的な受身文の特徴からまとめると以下ようになる。

- ① 大塚保安語の *ʒi* は受身を表す形態素ではない。*ʒi* は *bu ʒi gudə pio-nə apə-saŋ ni*。「私は昨日チケットを買った。」(アルラ 2023:94)のような動作主が文頭に置かれる能動文にも使われる。
- ② 大塚保安語の *ʒi* による目的語主題化文の動作対象が主格に交替する。

- ③ 大塚保安語の ξ による目的語主題化文の主語は動作の影響を受けている。上述の通り、大塚保安語の ξ による目的語主題化文の動作対象が主格に交替していることから、文頭の動作対象が主語とみなされる。
- ④ 大塚保安語の ξ による目的語主題化文は動作対象が有生である場合動作主の省略ができないことがある。

以上のことから、大塚保安語の ξ による目的語主題化文は Shibatani(1985) の提示する典型的受身文の特徴のうち、統語論的特徴と意味論的特徴を有している、といえる。

4.3 まとめ

表 3：大塚保安語と中国語の受身の統語的特徴と機能的特徴

	統語的特徴(動作対象が主語)	機能的特徴(動作主の脱焦点化)
大塚保安語の語順による目的語主題化文	×	○
大塚保安語の ξ による目的語主題化文	○	×
中国語の「被・给・让・叫」	○	○
中国語の主語が動作対象である「是…(的)」	○	×

大塚保安語の語順による目的語主題化文において動作主が省略可能であるのに対し、 ξ による目的語主題化文では動作主が省略できない。大塚保安語の語順による目的語主題化文と中国語の「被」構文は機能的に共通して、Shibatani(1985)が主張する、動作主の脱焦点化という語用論的機能をもっているため、大塚保安語では中国語の「被」構文に対応して語順による目的語主題化文が現れたと考えられる。

5. 結論

本発表では、中国語の「被・给・让・叫」構文及び主語が動作対象である「是…(的)」構文に対応して現れる大塚保安語の二つの目的語主題化文を Shibatani(1985)が提案する典型的な受身文の特徴から考察を行った。

表 4：Shibatani(1985)の典型的な受身文と大塚保安語の目的語主題化文の特徴

		典型的な受身文	ξ の目的語主題化文	語順の目的語主題化文
形態論的特徴	動詞+接辞	○	×	×
統語論的特徴	動作対象→主語	○	○	×
意味論的特徴	主語が影響される	○	○	×
語用論的機能	動作主の脱焦点化	○	×	○

発表者の調査では、中国語の「被・给・让・叫」構文に対応して語順による目的語主題化

文が用いられ、主語が動作対象である「是…(的)」構文に対応して、*gi*による目的語主題化文と語順による目的語主題化文の両方が使われる。上の表が示すように、大塚保安語の語順による目的語主題化文は動作対象が主語とならないなど、Shibatani(1985)が主張する典型的な受身文の特徴の一部を欠いている。これに対し、*gi*による目的語主題化文は動作対象が主語となる(主格で現れる)点で典型的な受身文と共通する特徴があるにもかかわらず、中国語における受身文に対応して現れるわけではない。

大塚保安語の語順による目的語主題化文において動作主が省略可能であるのに対し、*gi*による目的語主題化文では動作主が省略できない。この二つの目的語主題化文のうち、語順による目的語主題化文は中国語の「被」構文と共通して、動作主の脱焦点化という点で、Shibatani(1985)が提案する典型的な受身文に機能の面で適合している。そしてこの機能の面での共通性から、受身の形態素の存在しない大塚保安語において語順による目的語主題化文が中国語の「被」構文に対応して用いられていると結論付ける。

今後の課題として、大塚保安語の目的語主題化文とそれによる受身表現の区別、それから大塚保安語の情報構造を体系的に明らかにしたい。

略号一覧

1: 一人称 3: 三人称 ACC: 対格 (Accusative) CAUS: 使役 (Causative) COND: 条件 (Conditional) COP: コピュラ (Copula) CVB: 副動詞 (Converb) DAT: 与位格 (Dative) EP: 挿入音 (Epenthetic Vowel) GEN: 属格 (Genitive) NEG: 否定 (Negative) NMLZ: 名詞化 (Nominalizer) PAV: 受身 (Passive) PRF: 完了 (Perfect) PST: 過去 (Past) PTCP: 形動詞 (Participle) REFF: 再帰 (Reflexive) SG: 単数 (Singular)

参考文献

- アルラ(2023)「情報構造から見た大塚保安語の *gi*」『北方言語研究』13. pp77-99.
- 陳乃雄(1986)『保安語和蒙古語』呼和浩特：内蒙古人民出版社.
- 劉月華・潘文娛・故[韦华](2019)『实用现代汉语语法』北京：商务印书馆.
- 呂文華(1985)「主語是受事的“是…的”句」『汉语学习』2. pp.23-26.
- 三宅登之(2009)「行為連鎖の観点から見た中国語の“被”構文」東京外国語大学『語学研究 所論集』14. pp33-64.
- Тодаева, Б. Х. (1964) *Баоанский язык*. Москва: Наука.
- Shibatani, Masayoshi (1985) Linguistic Society of America. *Language*.61(4). pp.821-848.
- (1990) *The Languages of Japan*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Janhunen, Juha (2003) *The Mongolic Languages*. London and New York: Routledge.
- 朱德熙(1982)『语法讲义』北京：商务印书馆.